

説明的文章の読み解き

説明的文章の特徴と構成

I 説明的文章とは？

説明的文章は、ある事柄について**理由や根拠を明確に示しながら、結論や筆者の主張を示した文章。**

- ・事実や現象を分かりやすく説明した**説明文**
 - ・ある事柄について筆者の考えを述べた**論説文**
- 二つに分けられる。

小説などの文学的文章との大きな違いは、**論理的で筋道のはつきりした構成**になっていることである。

【説明的文章を読むときのポイント】

①話題

何について書かれた文章か。

- ・文章の初め
- ・「どうですか。」などの疑問や問いかけ。
- ・繰り返し出てくる言葉（キーワード）。

②文章の構成

文章全体の構成はどうなっているか。

※結論が最初にある場合、始めと終わりにある場合など
文章によって違うため、一度**全文に目を通す。**

③理由・根拠

意見・主張を支える根拠として、どんな事実や具体
例を挙げているか。

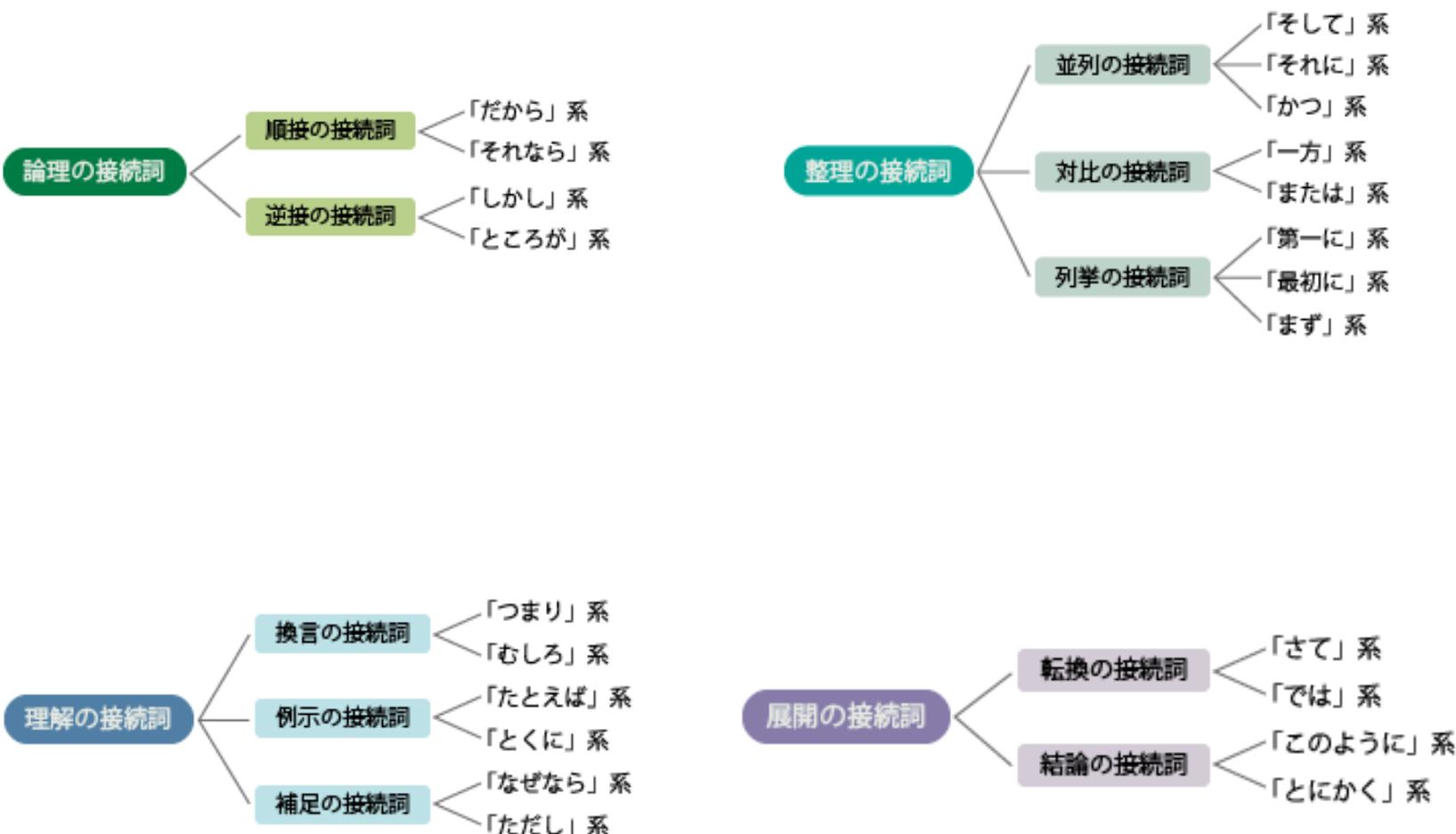
④意見・主張

筆者が言いたいことは何か。

2

接続する語句の理解（接続語）

説明的文章では、接続する語句（接続語）が大きな働きをする。
接続語は、語と語、文と文、段落と段落をつなぐ語句。



3 説明的文章の読み方の神髄

説明的文章の読み方のポイントを解説する前に、守ってほしい基本的なルールが二つある。

①問題本文をはじめに通読する

答える根拠が設問の傍線部からかなり離れている場合がある。そのような問題では、本文に傍線部が出てくるたびに設問を解こうとする、答える根拠をはつきりと見つけられないまま、何となく解答を書いてしまうことになりかねない。

また、説明的文章の抜き出し問題や筆者の意見・主張をつかむ問題は、答える根拠が傍線部から離れていることが多々あるため、本文は必ず通読してから設問にあたるようにしよう。

②問題本文に線を引く（マークイングする）

問題本文を通読するときは、文章のポイントとなるところに線を引こう。説明的文章の内容を理解するには、書かれた情報を整理することが大切。マーキングは情報整理の「可視化」（見える化）になり、設問を解くためのヒントになる。

説明的文章の読解が苦手な人はだまされたと思って、必ず行おう。

☆説明的文章の読み方のポイント（マークイング箇所）は以下の六つ。

- ①「まとめ」と「具体例」にわけて読む
- ②「対比」と「列挙」の文章構造に注意
- ③「問い合わせ」と「答え」をチェック
- ④逆接の接続語をチェック
- ⑤まとめ言葉をチェック
- ⑥筆者の主張・意見となる文末表現をチェック

①「まとめ」と「具体例」にわけて読む

説明的文章は大きく二つのパート(部分)にわけることができる。

- ・**まとめ(抽象)**
- ・**具体例(具象)**

「まとめ」とは筆者の述べたいことを抽象的に書いたもの。ただし、抽象的な説明はわかりにくいうことが多いため、筆者は読者がイメージしやすいように具体的な例を使って説明する。

例えば、「りんごの絵を描きなさい」と言われれば、ほとんどの人がほぼ同じ絵を描くはずである。それは「バナナ」でも「ぶどう」でも同じことが起こります。つまり、「誰もが具体的に頭のなかにイメージできるもの=具体例」

それに対して、「りんご」、「バナナ」、「ぶどう」をまとめると、「フルーツ」あるいは「果物」とグローピングすることができる。「フルーツの絵を描きなさい」と言われば、人それぞれさまざまな種類のフルーツを描くはず。すなわち、まとめられたものは抽象的という。

説明的文章を読むうえで、「まとめ」と「具体例」をセットでマークングするようしよう。

どの「まとめ」がどの「具体例」に対応しているのかがわかれれば、筆者の述べたいことをよりイメージしやすくなる。

②「対比」と「列挙」の文章構造に注意

説明的文章のなかでよく使われる表現であり、設問として頻出るのが「**対比**」と「**列挙**」の二つ。

・**対比**

「対比」とは二つ以上のモノやコトを比べ、その違いをはつきりさせること。

例) 「東洋と西洋」、「自然と人工」など。

対比は「何と何どが比べられているのか」と「どのような違いを述べたいのか」の両方をしつかり捉えよう。

また、対比を示す「接続語」として、「**それに対して**」と「**一方**」が文章に登場したら、必ずマーキングをしよう。

・**列挙**

「列挙」とは二つ以上のモノやコトを並べて説明すること。

「列挙」を示す言葉は以下の四つを本文中で見つけたら必ずマーキングしよう。

第一に、第二に、第三に 一つ目、二つ目。三つ目

まず、次に、最後に はじめに、さらに

③「問い合わせ」と「答え」をチェック

筆者が文章のテーマを示すときに使う方法のひとつが、「問い合わせ」と「答え」。例えば、本文中における「みんなさんは○○というものを知つていてるでしょうか?」という問い合わせは、読者に質問しているわけではない。これは「私がこれから述べることは○○です」という筆者のメッセージ。

もし、「問い合わせ」と「答え」を見かけたら、それが筆者の書きたい「テーマ=主題」のため、必ずマークイングしよう。テーマをチェックできれば、本文内容の理解に役立つ。問題文のなかに二つ以上のテーマがある場合、どこで話題が切り替わっているのかを知るためにも、「問い合わせ」と「答え」をしっかりと探そう。

④逆接の接続語をチェック

「だが、しかし、ところが、けれども」などの逆接の接続語の後ろには筆者の意見や主張がくることがある。説明的文章は「一般論(常識)↓主張・意見」の順番に書くことが多い。

逆接の接続語は大きくわけて以下の二つの役割をもつている。

読者の注目を集める
後ろの文を強調(アピール)する

特によく使われるのは、「私たちは○○を常識だと思っている。しかし、実は~」という形式。

本文中の逆接の接続語は必ずチェックしよう。また、その後ろの文も筆者の述べたいことなので、しっかりとマークイングしよう。

⑤まとめ言葉（接続語）をチェック

①で扱ったように、筆者の述べたいことは「**まとめ**」に書かれている。そのため、まとめを導く「**まとめ言葉**」（接続語）は必ずチェックしてください。マーキングするものは以下の四つ。

- このように（そのように）つまり
- すなわち
- 要するに

⑥筆者の主張・意見となる文末表現をチェック

筆者の主張や意見となる「文」は、**文末の表現**をチェックすることで探し出すことができる。主張や意見を表す文末は以下の通り。

- ～する必要がある
- ～すべきだ
- ～しないといけない
- ～しなければならない

筆者の主張・意見を問うものは入試によく出題されるため、本文中に上記の文末表現を見つけたらしっかりとマーキングしよう。

★ 以上のことと意識して、何回も問題を解こう。
速く、正確に読むことが得点アップの近道！

4 記述問題で高得点を目指すために・・・

①本文中の言葉を優先させる

なぜ、自分の言葉を極力使わない方がよいのかというと、自分の頭で言葉をひねり出そうとすると、本文の内容と異なるものになってしまふ危険性がある。

中学生にとつては、入試問題で使われる本文は難度が高いものであるため、本文の語句を自分の言葉で言い換えてしまうのは危険。自分の言葉で解答作成するのではなく、まずは本文中の言葉を優先させよう。

②具体例やセリフではなく、まとめ（一般化）を使う

説明的文章には**具体例**（引用など）が、必ず含まれている。しかし、具体例は「具体的に答えなさい」や「例を挙げて説明しなさい」というときのみ使おう。

説明的文章は、具体例の前後に具体例をまとめた文章（一般化された文章）がある。そちらをつなぎ合わせよう。

③解答要素の数を意識する

要約型の記述問題（文中の言葉をまとめるタイプ）では、本文中の一力所のみで解答作成できるといふことはほぼない。

入試問題レベルの問題であれば、解答要素は二～三カ所は考えた方がよい。複数箇所が採点上の解答要素だとすると、解答要素不足ではどれだけ良い解答を作つたとしても、満点は取れない。

④傍線部と同じ言葉を繰り返していないか

「傍線部を説明しなさい」という問題で、傍線部と同じ言葉を解答に含める人が少なからずいる。当然のことながら、「傍線部を説明しなさい」と言っているのに、傍線部の語句を繰り返しても点数にはならないため要注意。

また、傍線部中に比喩表現が含まれていて、それを比喩を用いない表現に置き換える問題でも、同じような現象が見られる。傍線部の内容に引きずられないよう、気を付けよう。

⑤「マーキング」を活かそう！

中学入試の国語は本文の文字数が多い。しかも、設問数も多い。そのため、本文を読み返す時間はあまりなく、もしあつたとしても、傍線部前後や傍線部を含む形式段落の範囲になりがち。

初読（＝最初に本文を読む）の際に、きちんとマーキングをしておこう。これらをマスターすると、記述の解答要素探しや根拠探し、抜き出し問題でも効果あり。

⑥一文を長くしすぎない

本文中の言葉を意識しすぎると起こる現象。「主述の乱れ」や意味の通じにくい複文や重文になりかねない。短い文で書いて、**接続語**を適切に使おう。

⑦推敲(すいこう)する

自分の書いた解答をしっかりと読み直すクセをつけよう。

「テスト時間が短く、自分の書いた答えを読み直す時間などないよ！」という人もいる。しかし、百字程度の文をさつと読み返すのは、それほど時間はかかるない。苦労して書き上げた解答なら、「てにをは」の間違いや、誤字脱字で減点されるのはもったいない。

また、最も多いパターンが「重複」。記述問題では、その場の思いつきで書き始めてしまうと、最初に書いたことを繰り返してしまうことがあるため、読み直して減点を防ごう。

⑧文字数は足りているか

記述問題は字数制限を設けているものが多い。「〇字以内で答えなさい」というもの。一般的には「80%以上書きなさい」と指導される。しかし、ここではあえて「**90%以上**」と言いたい！

この字数とは問題作成者が模範解答をもとに割り出した字数である。そのため、80%では解答要素が足りない可能性が大きい。

入試問題の採点は基本的には「加点法」と言われている。多少余計なことを書いても大幅な減点をされるということではなく、「書くべき内容が書いていないから点数が低い」というケースが圧倒的に多い。

- ★ 以上のハツを意識して、記述問題の解答を作ろう。
なによりも早く、正確に工夫して本文を読むことが、
解答を練り上げる時間や正しい読み取りにつながる！